

有機農産物に対する 消費者アンケートの結果

東北農政局 岩手県拠点
令和8年4月

食料・農林水産業は、自然災害や温暖化などにより多くの課題に直面しています。

これらに対応し持続可能な食料システムを構築するため、農林水産省は「みどりの食料システム戦略」を策定し、その一環として、有機農業を推進しています。

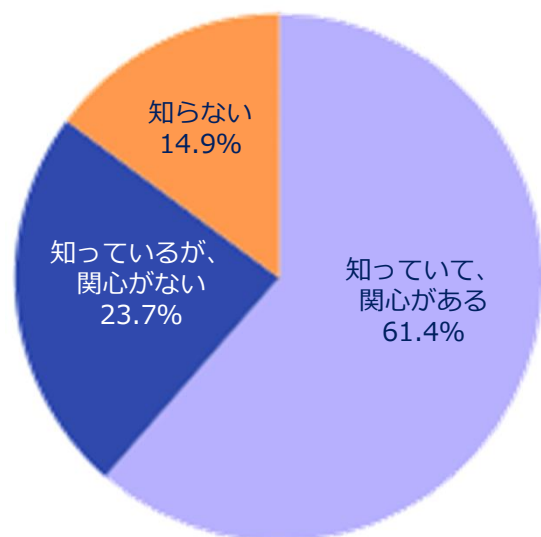
当拠点では、令和7年7月～令和8年3月にかけて岩手県内の消費者を対象に「有機農産物に対する意向アンケート」を実施しました。

アンケートについては、岩手県消費者団体連絡協議会にご協力いただき、614名の回答をいただくことができました。

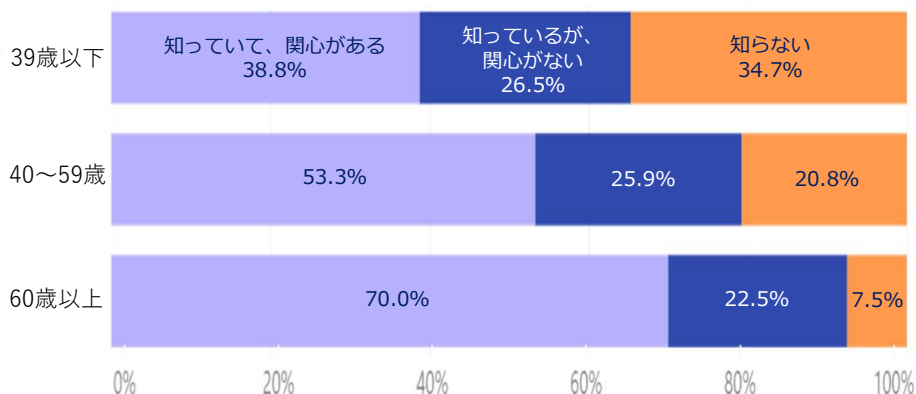
有機農産物について、生産者、販売者、消費者のすべての皆様の参考にしていただきたく、その結果についてお知らせします。

(1) 有機農産物に対する関心度

有機農産物について、「知っているか？関心があるか？」の問いに対し、「知っている」と回答のあった割合は85.1%で「関心がある」の割合は61.4%でした。



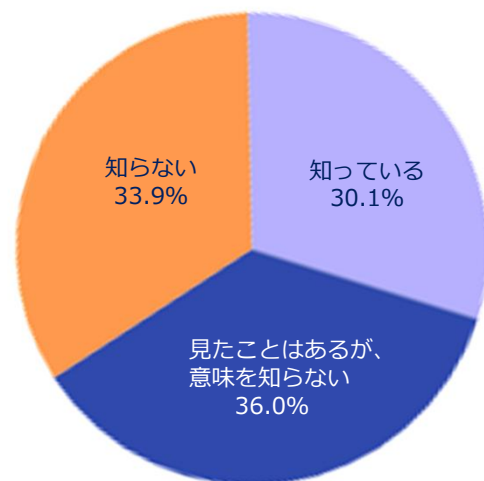
また、年齢層別では、60歳以上の7割が「知っていて、関心がある」と回答したのに対し、39歳以下は4割でした。年齢層が高いほど関心が高い傾向が伺えます。



(2) 「有機 JAS マーク」「みえるらべる」の認知度

有機農産物に表示されている有機 JAS マーク等の表示を「知っているか？」の問いに対し、「知っている」「見たことがある」と回答のあった割合は66.1%でした。

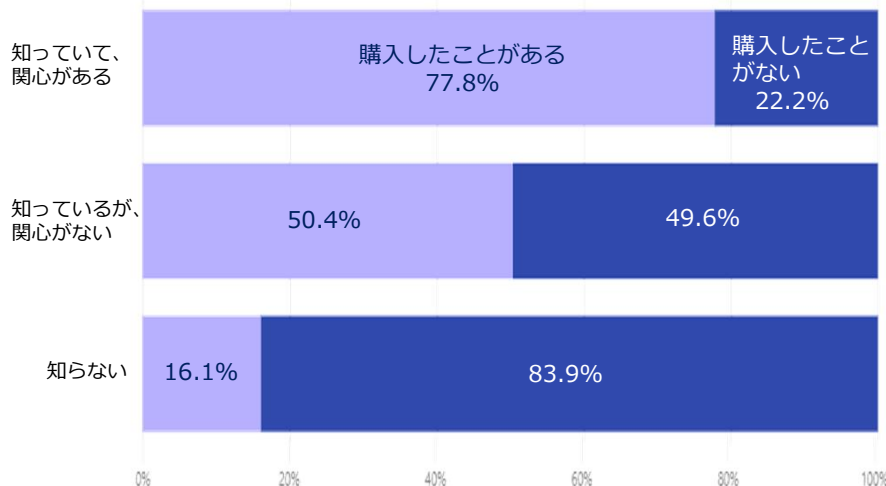
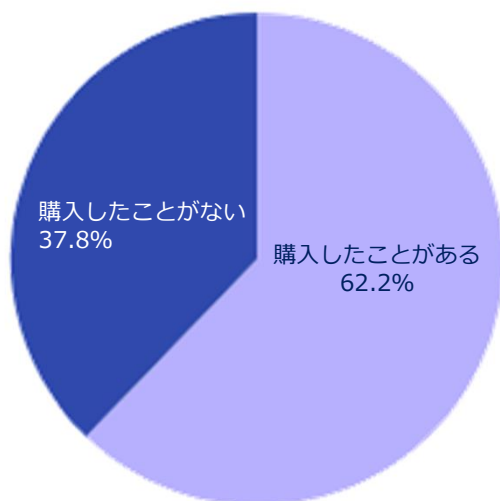
また、「知らない」と回答のあった方の意見を見ると、「実際は見たことがあるかもしれないが気が付かなかったのだと思う。」との回答が複数見られました。



(3) 有機農産物の購入

有機農産物を「購入したことがあるか？」の問いに対し、「購入したことがある」と回答のあった割合は 62.2%でした。

また、(1)で「有機農産物に関心がある」と回答した方の有機農産物の購入割合では、約8割が「購入したことがある」と回答しました。



※「知らない」と回答した方からは「あまり気をつけずに買い物をすることが多い。」との回答がありました。

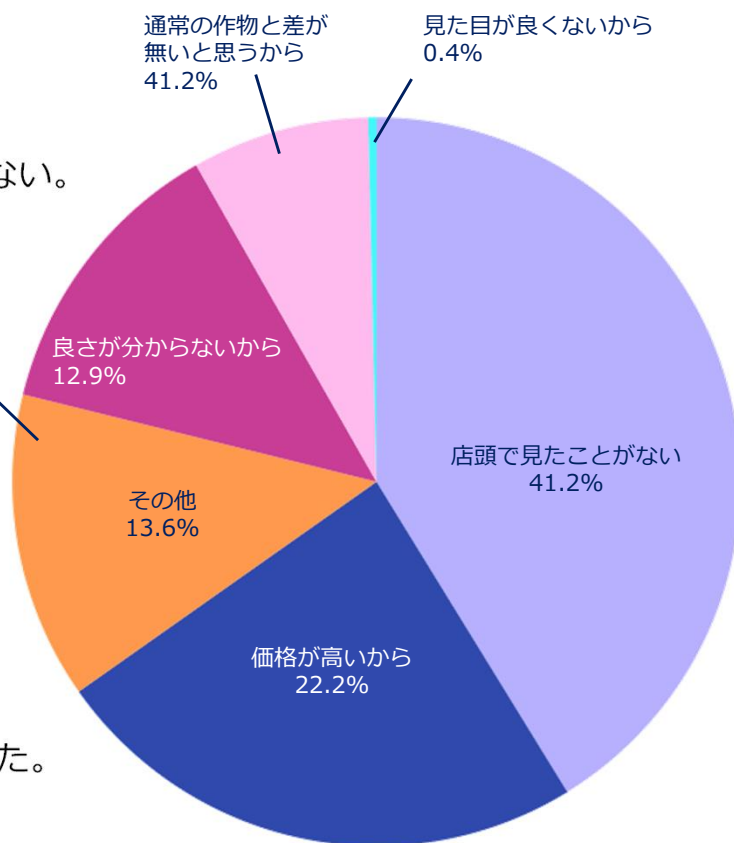
(4) 有機農産物を購入したことがない理由

※複数回答のため、合計が100%にはなりません。

有機農産物を購入したことがない方の「購入しない理由」は、「店頭で見たことがない」が 41.2%と多く、次いで「価格が高い」、「良さがわからない」の順となりました。

※「その他」の主な回答

- ・有機農産物という認識がなく、気づかないので買ったかどうかわからない。
- ・気にしたことがない。
- ・よくわからない。
- ・意識して見たことがないので、多分購入したことはないと思う。
- ・どういう商品があるのかわからない。
- ・虫がついてるかもしれないから。(虫が苦手)

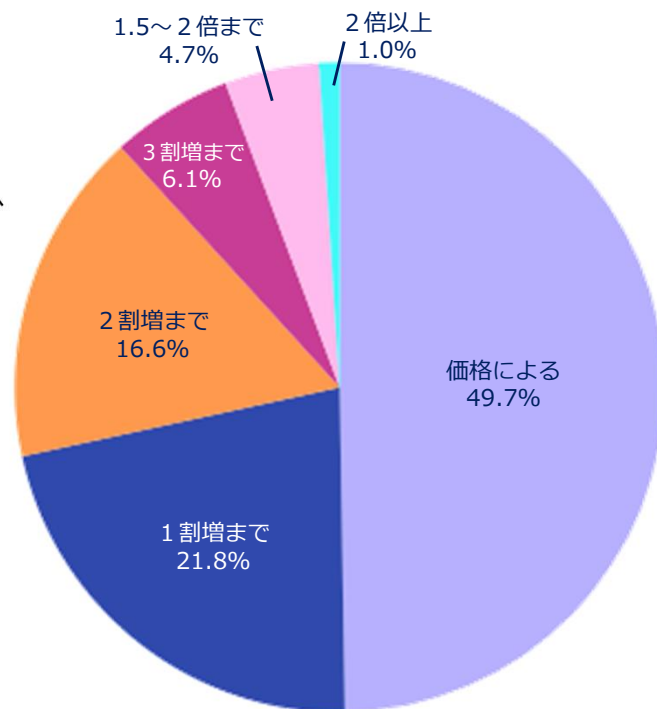


なお、「見た目が良くないから」で買い控える方は少ないことがうかがえました。

(5) 有機農産物の購入意向価格

有機農産物は、通常の農産物と比較し栽培が難しいと言われています。

消費者がそういった状況を理解し有機農産物を購入するとした場合の「購入意向価格差」の問いでは、「価格による」が 49.7%と多く、通常の農産物と比べ「2割増まで（1割増含み）だったら購入する」が 39%（1割増まで：22.8%、2割増まで：16.6%）で、3割以上の価格差になると購入意向が低い結果となりました。

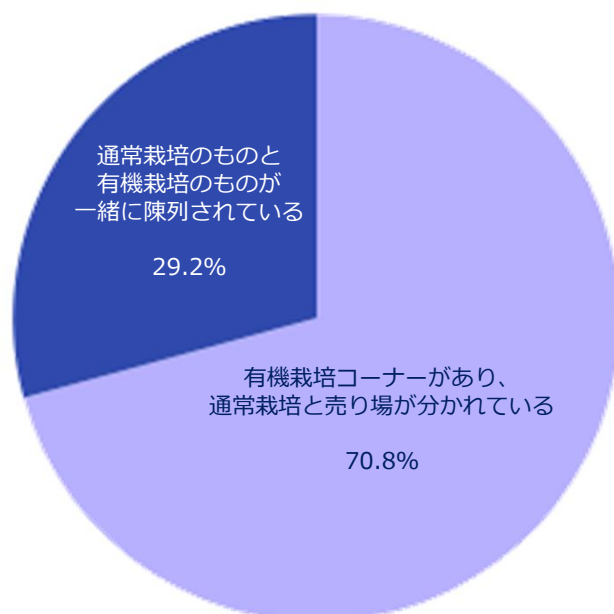


また、「価格による」の回答の個別の意見では、
「少量のものを出していただきたい。」
「高齢なので半分等にカットしたものを
出していただきたい。」
など**少量販売を希望する**意見が見られました。

(6) 有機農産物を購入しやすい店舗の陳列

小売店により有機農産物を陳列する形態は様々あります。

有機農産物を「購入しやすい店舗陳列」の問いでは、「有機栽培コーナーがあり、通常栽培と売場が分かれている」が 70.8%でした。



また、個別の意見では
「別売りされていないとどれが有機農産物かわかり
り難しい」
「一緒だと、どうしても価格を比べてしまう。」
などの意見が見られました。

☆自由記載欄に記入された主な意見等

○陳列・売り方に関する内容

- ・有機農産物を使いたいですが、高いのでつい比べて安い物を買います。
少量で出してもらえれば良いと思います。（年代：70代～）
- ・通常栽培と有機栽培にこだわらない方にとっては、一緒に陳列されていると価格が安い方を手に取りがちだと思うので、別の売り場に陳列されていた方が良いと思います。
（～10代）
- ・有機としっかりわかるような表示がされていれば、一緒に陳列の方が選びやすいように思います。（70代～）
- ・有機栽培コーナーに気づかず通常の売場に行ってしまうので、隣に分けて陳列されていると見つけて選んで購入できると思います。
有機栽培コーナーがあれば、色んな種類の有機野菜が一目で分かり買いやすいです。
陳列スペースの問題もあると思いますが、2ヶ所に陳列されていると良いと思います。
（40代）

○価格に関する内容

- ・有機農作物はとても良いし利用したいと思いますが、価格が高いことがハードルになっています。国から価格への補助などがあれば広がるきっかけになるとと思います。（60代）

○有機農産物に対する理解不足等に関する内容

- ・「有機」と付くものは体に良さそうというイメージくらいで、積極的な購入につながっていないのが正直なところだと。良さがわかり納得できたら、どんどん購入したいです。
（40代）
- ・詳しく知らないので、関心を引く様な資料、カタログ等があれば良いなと思います。
（70代～）
- ・「有機」と聞くと、より肥料を与えているのかな？と思います。
防除、除草に手がかかることを指しているとは思いませんでした。（30代）

～学生の視点で考える有機農産物のPRアイデア～

東北農政局岩手県拠点では、大学生等を対象に農業政策等に関する講義を実施しています。

その一環として、「有機農産物をどのようにPRすれば消費者に買ってもらえるか？」をテーマに学生同士でグループ討議を行い、様々なアイデアを出していただきました。

学生から出された主なアイデアをご紹介します。

- ・産直でCMを流す。 ・バラ売りコーナーで販売。（外国では多い。）
- ・店舗に「販売日」を作ってもらう。（イベント日等。）
- ・ポジティブなポップの掲示「虫も食べたくなる！！」。
- ・店舗で有機農産物の音声PRを流す。（スーパーの魚や焼き芋の歌は頭に残る。）
- ・街中の巨大モニターやSNSなどでPR。（有機農産物のPRは見たことが無い。）

<みどりの食料システム戦略>

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」に取り組んでいます。



東北農政局岩手県拠点
岩手県盛岡市盛岡駅前北通1-10
☎019-624-1125

